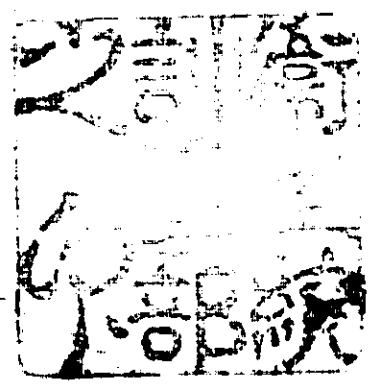


S  
A  
5

勞働保護資料第三十七輯  
昭和六年三月

# 深夜業禁止の影響調査

社會局 勞働部



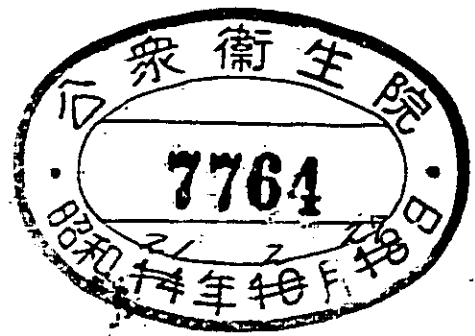
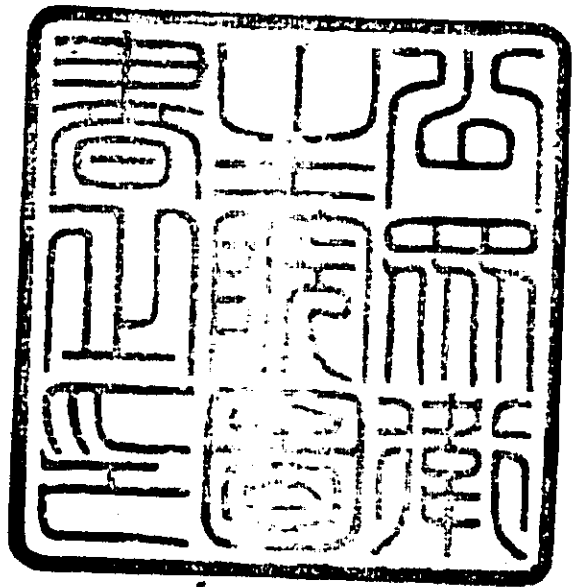
国立労働資料院蔵書



\*10012122\*

S  
A  
5

S
A
5



はしがき

- 一、本調査は昭和四年七月工場法に依る深夜作業禁止前、深夜業を行つて居た紡績及織物工場より深夜業禁止の實際的影響に關し報告を徴し之を取り纏めたものである。
- 二、本調査に當りて職工傷病率及出勤率編は鯉沼技師、水野屬、餘暇利用及福利施設編は谷野屬其の他は凡て鈴木技師が擔當したるものである。
- 三、本調査は執務の便宜の爲印刷に附したるものにして公刊するの意では無い。

昭和六年三月

社會局 労働部

7764

7764

目次

第一編 緒論	一
第二編 調査計畫	二
第三編 生産に及ぼしたる影響	一五
第一章 綿絲紡績業	一五
第二章 絹絲紡績業	二七
第三章 梳毛紡績業	三一
第四章 紡毛紡績業	三七
第五章 麻絲紡績業	四二
第六章 綿織物業	四四
第七章 毛織物業	五六
第八章 麻織物業	六〇
第九章 総機生産高に及ぼしたる影響	六一
第十章 精紡部運轉錘數及就業職工數並に女工一人當受持錘數	六七

昭和二年四月二十七日  
川上理一先生  
東京  
厚田研究所

第十一章	精紡部職工賃銀	七〇
第十二章	織布部平均運轉臺數及就業職工數並に女工一人當平均受持臺數	七二
第十三章	織布部職工賃銀	七四
第十四章	結 論	七六
第四編 職工傷病率及出勤率に及ぼしたる影響		
第一章	緒 言	七九
第二章	傷 病 率	八〇
第三章	平均出勤率	八三
第四章	總括及結論	八四
第五編 餘暇利用及福利施設		
第一章	緒 言	九九
第二章	職工の種類及餘暇時間	一〇〇
第三章	餘暇利用福利施設に關する工場側の方針	一〇二
第四章	餘暇利用福利施設狀況	一〇五
第五章	結 論	一二七

## 深夜業禁止の影響調査

### 第一編 緒 論

明治時代の初期に當りて政府は頻りに歐洲の技術を輸入することに努力したる結果、我が國は頓に工業に於て長足の進歩を來したるは世人の等しく認むる所である。就中紡織工業の進歩は最も著しき進歩を來したるものゝ一である。抑々薩摩藩主島津公が外人の齎らせる綿絲を見て將來我が國をして苦しましむるは此の綿製品なるに着目し、洋式紡績所を設立するに決し慶應二年鹿兒島の磯にて操業を開始したるが、我が國に於ける洋式紡績の嚆矢であつた。當時の労働時間は片番制十時間なりしも、明治政府が官立紡績所を群馬縣新町（明治十年）愛知縣大平（明治十四年）及廣島縣上瀬野（翌十五年）に設立したる當時にありては、二交替制十二時間労働なりたるものゝ如くである。其後各地に紡織工場の設定せらるゝものもあるも労働時間等に關しては官立工場を模倣したるがため二交替制の就業は廣く普及するに至つた。

明治十六年工場法制定に着手して以來二十八年にして明治四十四年法律の成立を見、而して大正五年九月一日より之が實施を見るに至つたが、深夜作業禁止は十五年後に至らざれば效力を發生せざる

法案であつた。然るに該法律の公布後歐洲大戰の終末に於て國際勞働會議の開催となり、深夜作業禁止、勞働時間短縮等の大いに論究せらるゝありて、我が國も亦之に参加し、世界の大勢に順應し、大正十二年法律の改正を行ひ、就業時間の短縮並に深夜作業禁止の事項等の改正を行ひ、昭和四年七月一日を以て保護職工（一般婦女子及幼年工）の深夜作業の禁止を實施することになつた。之れ勞働法規上特筆すべき劃期的の法規である。而も此の革期的時代を圓滿無事に通過するを得たるは賞讃に價するものである。此の深夜作業禁止が實際的に如何なる影響を與へたるかを調査するは亦極めて重要な事項なるを以て、深夜作業の禁止の影響の大なるべき業務につき、其が調査をなすこととした。其の調査の内容は第二編に詳記する所であるが、其の調査方法の複雑にして記載上に誤算誤記を來したるものあるがため、之等に對しては事項別に再三再四調査を要求したるがため多數の日子を費し、爲に完結に延引を來した、之は一に記事の正確を期したるがためである。再三の調査によるも記載不完全なるもの、調査不可能なるもの、期日に甚しき遅延を來したるもの等ありたるもの並に公表を憚かる事項及共通の性質を有せざる事項等は遺憾ながら統計より除外することにした。此の爲め各種類別に調査したる工場數に於て同一なることを得なかつた次第である。

## 第二編 調査計畫

深夜業禁止は多年の懸案なるが故に之が實施期に於て如何なる實際的影響あるかは極めて興味ある問題なるが故に此の期を逸せず調査するの計畫を立てた。昭和三年中深夜作業を行ひたる工業の種類は紡績業を始めとして織物業、製紙業、組物編物業、撚絲業等の工業ありたるも、保護職工數を最も多く僱用するは紡績業である。而して紡績工場は概ね織布工場を兼營し又獨立の織布工場中には亦深夜作業を行ひたるものありたれば、調査に最も適合したる業務は紡績工業であるとなした。

**調査事項** は生産高、人員及賃銀、新受診患者數等の増減並に餘暇利用及福利施設等の諸事項であるが、生産高調査に當りては紡織工業中の最も重要なものは精紡部及織布部の二作業なるが、主として機械力による生産なるがために、機械力と相當の人力とを要する総部をも加へて三部とした、之等は何れも平均一日一錘（臺）當り生産高、平均一日一人當り生産高及一分間の回轉數等を調査することにした。

人員及賃銀の増減の調査には運轉錘數及女工一人當り平均受持錘（臺）數の調査を同時に行ふこととした。職工數の増減は未熟練工數の増加、受持錘（臺）數の増減、畢ひては生産高の増減と密接なる關係を有するからである。

**調査期間** の選定は調査に當り重要な要素である。時期の適否は季節的影響を受くること大なると共に、又職工の増減、技術上の巧拙、製品の變化等のため調査を困難ならしめるものである。長期にわたりて調査要領の複雑なるものを調査するは幾多の困難を伴ふが故に、互に接近したる深夜作業



記載方注意

- (一) 本調査ハ紡績業及織物業中昭和三年深夜業ヲ行ヒ、昭和四年之ヲ廢止シタリシ工場ニ就キ表記ノ期間ニツキ調査シ記入スルコト
- (二) 平均一日一鍾當リ若ハ一人當リ生産高トハ一人一交替ノ實働時間(例ヘバ實働時間十時間若ハ八時間半)ノ生産高ノ意ナルコト、一日ノ實働時間トハ一交替ノ實働時間ノ意ナルコト、番方ニ依リ異ル時ハソノ平均ニヨル
- (三) 平均一日一鍾當リノ生産高調査ニ當リテハ番手切替日ノ、切替前後ノ番手別一鍾當生産高ヲ除外シ、切替無カリシ日ノ一鍾當リノ累計ヲ、其ノ切替ナカリシ其ノ部ノ日數ニテ除シ、四捨五入ノ結果ニ於テ小數點以下第三位迄ヲ記入スルコト
- (四) 平均一日一人當生産高調査ニ當リテハ、番手別生産高ヲ夫々其ノ生産ニ從事シタリシ精紡工場ノ女工延人員(但見廻工、掃除工等ノ種類ノ直接生産ニ關係ナキモノヲ除ク)ニテ除シ、四捨五入ノ結果ニ於テ、小數點以下第三位迄ヲ記入スルコト、番手別延工數ヲ計算シ得サル工場ニシテ、番手ヲ特殊番手ニ或ル目的ヲ以テ換算(例ヘバ二〇半ニ換算ノ如キ)ヲナシ居ルモノニアリテハ當月ノ生産各番手ヲ特殊番手ニ換算シタル後記入スルコト、此ノ際換算率ヲ別紙ニ認メ添付スルコト
- (五) 平均ノ増減ノ百分率ハ昭和三年ヲ基準トシ四捨五入ノ結果ニ於テ小數點以下第二位迄ヲ計算シ記入スルコト、増加ニハ上ニ△印ヲ附スルコト
- (六) 備考欄ニハ生産ノ増減ニ影響アリト認メラルル事項アラバ記入スルコト
- (七) 番手別ノ種類多クシテ欄ニ不足ヲ生ジタル際ハ、夫々補ヒ記入スルコト
- (八) 月トハ曆月ニ依ラズ會社ノ計算月ニヨルモノ可ナルコト

第二表 深夜業禁止ノ實際影響調査  
織布生産高

工場名  
所在地

區別 銘柄別	昭和三年					昭和四年					平均ノ増減 △ハ増減	備考
	九月	十月	十一月	十二月	平均	九月	十月	十一月	十二月	平均		
平均一日 生産高												
平均一日 一臺當リ 生産高												
クラシシ ヤフト一分 間ノ回轉數												

備考

記載方注意

- (一) 本調査ハ紡績業及織物業中昭和三年深夜業ヲ行ヒ昭和四年之ヲ廢止シタリシ工場ニ就キ表記ノ期間ニツキ調査シ記入スルコト



- (一) 平均一日一察當リ若ハ一人當リ生産高トハ一人一交替ノ労働時間(例ヘバ労働十時間、八時間半)ノ生産高ノ意ナルコト、一日ノ労働時間トハ一交替ノ意ナルコト番方ニヨリテ異ナルトキハ其ノ平均ニヨルコト
- (二) 銘柄別ノ平均一日一人當リ生産高計算ニ當リテハ銘柄別生産高總計ヲ、其ノ生産ニ直接從事シタリシ織工ノ延人員ニテ除シ、四拾五入ノ結果ニ於テ小數點以下第三位迄記入スルコト
- (三) 銘柄別ノ組織、織巾、一反ノ織丈(長)及重量、使用経絲及緯絲ノ番手等ヲ別紙ニ認メ添付スルコト
- (四) 平均ノ増減百分率ハ昭和三年ヲ基準トシ四拾五入ノ結果ニ於テ小數點以下第二位迄計算記入スルコト、増ニハ上ニ△印ヲ付スルコト
- (五) 備考欄ニハ生産ノ増減ニ影響アルト認メラルル事項アラバ記入スルコト
- (六) 月トハ曆月ニ依ラズ會社ノ計算月ニヨルモ可ナルコト

第三表 深夜業禁止ノ實際影響調査

人員及賃銀ノ増減  
甲、平均數  
工場名  
所在地

部	紡		精		運轉 鐘 數	就業 職 工 數	女 工 一 人 當 平 均 受 持 鐘 數	平均賃銀	年 月 別				平均ノ増減 率	備考	
	別		別						昭和						
	女	男	女	男					九	十	十一	十二			
										九月	十月	十一月	十二月	平均	

部	布		織		運轉 鐘 數	就業 職 工 數	織 子 一 人 當 平 均 受 持 鐘 數	平均賃銀	年 月 別		
	別		別						昭和		
	女	男	女	男					九	十	
										九月	十月

- 記載上ノ注意
- (一) 本調査ハ紡績業及織物業中昭和三年深夜業ヲ行ヒ昭和四年之ヲ廢止シタリシ工場ニ就キ表記ノ期間ニツキ調査シ記入スルコト
  - (二) 各部ノ就業職工數、運轉鐘數、運轉率數ハ其ノ月ノ平均ヲ記入スルコト
  - (三) 賃銀ノ中ニハ手当、賞與等勞務ノ報酬ヲ凡テ之ヲ含ムコト
  - (四) 女工一人當平均受持鐘數若ハ察數計算ニハ見廻工女若ハ女工監督ヲ除外スルコト
  - (五) 平均ノ増減ノ百分率ハ昭和三年ヲ基準トシ、小數點以下第二位迄(四拾五入ノ結果ニ於テ)記入スルコト、増加ニハ上ニ△印ヲ付スルコト
  - (六) 月トハ曆月ニヨラズ會社ノ計算月ニヨルモ可ナルコト

乙、賃銀計算方法ノ詳細

(一) 業務別、品種別ニ賃銀計算方法及單價ヲ詳述シ、深夜業廢止ニ伴ヒ方法及單價ニ變更ヲナシタルトキハ、其ノ詳細ヲ記述スルコト



(二) 本項ハ別紙ニ認ムルコト

第四表 深夜業禁止ノ實際影響調査  
餘暇利用及福利施設

工場名	所在地	深夜業ヲ廢止シタ ル年月日	職業ノ種類		職工數		利用状況	就業時間及 交替ノ概要	深夜業廢止前ト其ノ後トノ比較
			種	類	計	性			
			男	女	男	女			
			補習學校	裁縫手藝	徒弟職工ノ技術的教育	講	修養園其ノ他	文庫又ハ圖書室	其ノ他

深夜業廢止後ノ餘暇利用ニ 關スル大體方針及實狀概況	娛樂		體育			
	音	映	其	體	室	屋
	樂	畫	ノ	操	內	外
	劇	演	他	操	遊	遊
	他	ノ	他	操	遊	遊

備考 (一) 調査項目中新設其ノ他未タ官廳ニ報告シタルコトナキモノニ就テハ詳細別紙ニ記述スルコト  
(二) 月下計畫中ノ施設アラバ別紙又ハ裏面ニ詳細ニ説明スルコト

第五表 深夜業禁止ノ實際影響調査

新受診患者數調査

工場名  
所在地

感傷別	病種	年次別		昭和三年	昭和四年	平均ノ増減
		男	女			
胃	傷	九月	九月			
		十月	十月			
		十一月	十一月			
		十二月	十二月			
		一月	一月			
		二月	二月			
		三月	三月			
		四月	四月			
		五月	五月			
		六月	六月			
		七月	七月			
		八月	八月			
		實數	百分率	備考		



第六表 生産高調査工場數

計	材料別		紡績	織物	紡績物	織物	総
	麻	毛					
計	一五五	四	一五九	二〇〇	二〇〇	九〇	八一
麻	一四	一	一五	二〇	二〇	一	二
毛	一四	一	一四	一八〇	一八〇	一	三
綿	一四	一	一四	一八〇	一八〇	一	七
絹	一四	一	一四	一八〇	一八〇	一	九

第七表 就業人員、受持錘(臺)數調査工場數

計	材料別		紡績	織物	紡績物	織物	受持錘、(臺)數
	麻	毛					
計	一八三	一〇七	一八三	一〇七	一八三	一〇七	一〇七
麻	一四	三	一四	三	一四	三	三
毛	一四	九	一四	九	一四	九	九
絹	一六	九	一六	九	一六	九	九
綿	一四	九	一四	九	一四	九	九

備考 (一) 就業人員は運轉錘數及臺數と同時に、受持錘數及臺數は平均賃銀と同時に調査したるが故運轉錘數及臺數並平均賃銀調査工場數は大體上記の數と一致するも、平均賃銀調査工場中、月収によるものありて之を削除したるが爲め多少の差異がある

の差異がある

而して生産高調査に當り製品別の調査工場數は製品一種につき夫々一工場と見做して計上したるが故に同一工場にて三種の製品ある場合は三工場となしたのである。従つて生産高調査に於ける工場數につきて以下述ぶるものと、前記のものとの差異があるは、此の理由に基くものである。

### 第三編 生産に及ぼしたる影響

労働時間の短縮は生産高に影響を及ぼすは當然なるも、其の取扱材料の如何により差異あるが故に各種紡績及織物及総機に分ちて、其の實際的影響を調査することとした。而して深夜業禁止前二交替制實働十時間の工場が、廢止後實働八時間半のものに就きての調査のみを本編には述べることとする。

### 第一章 綿絲紡績業

(一) 平均一日一錘當生産高

綿絲紡績業にありては總平均に於て第八表に示すが如く一九・九三%の減少を來して居る。労働時間數が一五%の減少なるに一九・九三%の減少を來せることは注目し値する。各番手別の平均に於て最高の減少率を示せるは四五手(二五・一八%)にして、之に次ぐは七手(二四・八四%)である。而して

二〇%以上の減少率を來せる紡出番手は、七、八、一五、二二、二三及四五手にして、實働時間數の減少率たる一五%以上の減少率なるは一〇、一四、一六、二〇、二四、二五、二六、三〇、三二、三五、三八、三九、四〇、四二、四四、六〇、八〇及一〇〇番手にして、其の他は何れも一五%以下の減少率である。

(二) 平均一日一人當生産高

總平均は六・六〇%の減少を來したるも番手によりては却つて増加を來したるものもある。四六手は最高の増加率を來したるものにして一七・二三%であり、之に次ぐは四二手及三六手にして、夫々五%弱の増加を來したのみである。其の他は何れも減少を來したものであるが、最高減少をなしたるは四手の二四・九〇%であり、一五%以上の減少をなしたるものに、四四、一五、二二、二五、三五、四一及四五手等があり列記以外のものは何れも一五%以下の減少である。

(三) スピンドルの回轉數

調査工場三九一の中回轉數の増加工場數は一九二、減少工場數は一三五なるも、總平均に於ては回轉數の増加は僅かに二三にして、廢止前の回轉數に比し、二・三%に相等する。最高増加率の紡出番手は三九手にして實數四一三回(四・五一%)の増加であるが、之に反し最高の減少率なるは一五手にして實數五二二回轉(五・三四%)の減少である。

以上三者の状況を詳細に表示すれば第八表の通りである。

第八表 綿絲紡績平均一日一鍾當及一人當生産高並回轉數調査

種別 名	工場數	平均一日一鍾當生産高			回轉數			平均一日一人當生産高			
		前	後	差	前	後	差	前	後	差	
四	一	三六・七〇	三三・〇〇	三・七〇	二、四三三	二、五六七△	一、六五△	三、四七五	二、六三四	八、一三三	二、四九〇
六	一	三三・九〇	三〇・〇〇	三・九〇	七、一八七	七、一八七	—	—	—	—	—
七	一	二四・六六	二〇・〇〇	四・六六	八、九六五	八、九六五	—	—	—	—	—
八	一	二五・三三	二〇・〇〇	五・三三	八、九六五	八、九六五	—	—	—	—	—
九	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	七、四九九	七、四九九	—	—	—	—	—
一〇	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
一一	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
一二	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
一三	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
一四	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
一五	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
一六	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
一七	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
一八	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
一九	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
二〇	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
二一	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
二二	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
二三	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
二四	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—
二五	一	二七・〇〇	二二・〇〇	五・〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	—	—	—	—	—

製品別	工場数	平均一日一鍾當生産高		百分率	回轉數		百分率	平均一日一人當生産高		百分率
		前	後		前	後		前	後	
二六	一	三九・八五	三三・五〇	一八・四四	九、八三五	九、一七四	六・六三	二二・三三	二二・三三	九・二二
二七	三	三八・七七	三三・六三	一五・八五	九、九〇五	一〇、一四〇	二・三六	二二・三三	二二・三三	九・二二
二八	三	三五・三三	三三・〇三	一一・六九	九、七六一	一〇、〇八三	二・三六	二二・三三	二二・三三	九・二二
三〇	六	三五・三三	三三・〇三	一一・六九	九、九六七	一〇、一四九	二・三六	二二・三三	二二・三三	九・二二
三一	三	三〇・七七	二六・〇〇	四・五七	一〇、五〇九	一〇、六三三	一・一六	一五・七四	一五・七四	一一・〇三
三二	三	三〇・七七	二六・〇〇	四・五七	九、九九九	一〇、二〇〇	一・一六	一五・七四	一五・七四	一一・〇三
三三	三	二九・六六	二四・八三	三・二二	九、九八九	一〇、一九七	一・一六	一五・七四	一五・七四	一一・〇三
三四	三	二五・三九	二三・三五	二・八四	九、七七四	一〇、一九七	一・一六	一五・七四	一五・七四	一一・〇三
三五	二	二七・五一	二三・一九	四・三三	一〇、七七四	一〇、六三三	一・一六	一五・七四	一五・七四	一一・〇三
三六	二	二五・〇一	二二・八〇	三・二二	九、五八三	九、六三九	〇・四九	一〇・三六	一〇・三六	一一・〇三
三八	九	二〇・九八	二二・〇〇	三・二二	一〇、四四六	一〇、三三九	一・一六	一五・七四	一五・七四	一一・〇三
三九	二	三三・六六	一九・四五	一六・三七	九、二九	九、五五三	四・三二	二・五四	二・五四	一七・〇一
四〇	四	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
四一	四	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
四二	三	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
四三	三	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
四四	三	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
四五	三	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
四六	三	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
四七	三	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
四八	三	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
四九	三	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
五〇	三	三三・三三	一八・九三	一五・三三	一〇、四四六	一〇、五九九	一・三九	一〇・三六	一〇・三六	一七・〇一
五〇〇	一	六・〇六	五・〇五	一・六六	九、三〇一	九、三三三	〇・三三	一・四〇〇	一・四〇〇	九・〇三
一一〇〇	一	四・八七	四・一七	〇・七〇	九、六六三	九、九七八	三・三二	一・三一九	一・三一九	九・〇三
總平均	一	五・九一	四・六六	一・二五	九、七三三	九、七三六	〇・〇三	一・三一九	一・三一九	九・〇三

製品別	工場数	前	後	差	百分率	前	後	差	百分率	前	後	差	百分率
一〇〇〇	一	六・〇六	五・〇五	一・〇一	一六・六六	九、三〇一	九、三三三	〇・三三	三・五七	一・四〇〇	一・四〇〇	〇・〇〇	九・〇三
一一〇〇	一	四・八七	四・一七	〇・七〇	一四・三三	九、六六三	九、九七八	三・三二	三・三六	一・三一九	一・三一九	〇・〇〇	九・〇三
總平均	一	五・九一	四・六六	一・二五	一九・九三	九、七三三	九、七三六	〇・〇三	〇・三三	一・三一九	一・三一九	〇・〇〇	九・〇三

備考  
 一、前後とあるは深夜業廢止前後を意味し、差實數とは前後の差の實數を示す。  
 二、百分率とは差實數を深夜業廢止前の實數にて除したる百分率にして小數第三位は切捨たるものなり。  
 三、△印を附したるは深夜業廢止後の方、廢止前より増加したるものを示し、之なきは減少を示す。

(四) 番手別スピンドル回轉數増減別工場數

更に回轉數の増減につきて之を番手別に工場數を調査するに、増加したる工場の多きは二〇手紡出工場にして三二工場を算し、之に次ぐは四〇手の工場にして二四工場ある。之に反し減少したる工場數の最多き番手は二〇手にして二六工場あり、之につぐは三〇手の一三工場である。増減をなさない工場數は三九一工場中僅かに六四工場にして總數の一六・三七％に相當する。尙詳細は第九表に示す通りである。

第九表 製品別回轉數増減別工場數調査

製品名	種類	回轉數の増減		計
		増	減	
四	一	一	一	一



して、一五・〇三%をなしたるは最高にして、回轉數は一五・九六%の増加をなしたる工場である。最低増加率は一二・九四%にして、回轉數を四・八三%増加したる工場である。之に反して減少率の最高は一〇手の工場にして、回轉數を二〇・七四%減少し、生産高に於て三六・七八%の減少を來し、最低減少率は三〇手の工場にして生産高に於て二・〇一%、回轉數に於て二〇・二三%の増加をなしたるものである。各番手別に表示すれば第十表の通りである。

第十表 製品別最高最低増減率比較

製品別	増		減		平均
	最高	最低	最高	最低	
二					一四・四四
一					一〇・七一
一					二四・八四
一					二〇・六二
一					一八・五七
一					一四・七四
一					一九・一二
〇					二三・四八
六			三六・四〇	八・三六	一七・七七
五			三〇・八一	五・八七	一七・七九
四			二七・八六	二〇・八六	二四・四八
二			二六・七二	九・七〇	一八・五七
〇			二一・一一	九・四八	一四・七四
八			三六・七八	四・〇六	一八・五七
七			二九・六六	一三・五六	二〇・六二
六					一四・四四
四					一〇・七一

製品別	増		減		平均
	最高	最低	最高	最低	
二			三一・五二	一三・五一	二一・四〇
二			三〇・四二	一四・九〇	一三・六五
二			二六・七六	一二・八四	二〇・八六
二			二四・二一	一〇・六四	一七・一二
二			二五・九二	八・一四	一七・一四
二			二〇・四一	一二・三四	一五・八五
二			一三・三二	九・九三	一・六九
二			三〇・三八	二・〇一	一五・六五
三			一七・九九	一三・一三	一四・九五
三			三三・九三	一〇・〇五	一七・一二
三			一四・二九	七・九二	一一・一九
三			一八・六八	一二・七一	一五・七一
三			三三・二七	四・四四	一二・八二
三			一九・五七	九・六九	一五・八四
三			一九・〇七	一三・五八	一六・三七
三			二七・〇四	二・一三	一五・二三
四			一四・九二	一三・三六	一四・二七
四			二八・六八	五・七九	一七・一三
四			一九・一九	一五・四〇	一七・七一
四			二九・〇〇	一三・〇〇	二五・一八
六			二一・五三	一一・八一	一五・七五



製品別	増減別		加		減		平均
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	
六							二〇・七九
八							一六・〇八
一							一六・六六
一							一四・三三
二〇							一九・九三
平均							一九・九三

(六) 回轉數不變更工場の平均一日一錘當生産高

回轉數の増減をなしたることは深夜業廢止に伴ふ一の實際的影響なるも、之を無視して生産高を論究し終るは聊か不滿なるが故に、回轉數に變更を加へざりし工場の生産につきて調査し之を述べることにする。素より眞の生産高の比較を調査するには深夜業時間の廢止のみの工場中、原料、職工及環境等も同一なるものを選ばねばならぬが、之は全国的に調査集計することは不可能である。今せめても回轉數の増減變更をなさざるもののみにつきて番手別に考察することとする。

詳細は第十一表に表示する通りである。之によりて平均一日一錘當りの總平均を見るに八・九七%の生産減を來して居る。然し此の中には原料の改善により生産減を或る程度に補填したるもの、未熟練工の新入等のために生産減を來して居るもの、あることを忘れてはならぬ。而して平均減少率の最高は一六手にして、二八・七三%であり、最低は七・八四%なる三六手である。一五%以上の減少率を來せるは七、八、一〇、一二、二〇、二三、三一、三二及四〇手等であるが之等は我が國生産の主要番手である。

(七) 回轉數不變更工場の平均一日一人當生産高

總平均に於て九・五四%の減少なるも、番手別に之を見る時は實働時間數の減少に反し生産高の増加したるものがある。之は受持錘數の増加に依るが普數である。一六手、四六手、三六手、三〇手等は何れも増加したるが、減少率の多き最高は二三手の二五・三五%にして之につぐは三二手の二一・七六%である。其他の詳細に關しては第十一表に示す通りである。

第十一表

製品別	工場數	平均一日一錘當生産高				平均一日一人當生産高				回轉數
		前	後	差	百分率	前	後	差	百分率	
六	二	三三・四六	三〇・二四	三・二二	一〇・七	二二・〇〇	二〇・〇〇	二・〇〇	九・〇〇	七、八七
七	二	二四・六六	二一・三三	三・三三	一三・八四	二二・〇〇	二〇・〇〇	二・〇〇	七、八〇	八、九六五
八	三	二一・四九	一九・〇六	二・四三	一一・三〇	二二・〇〇	二〇・〇〇	二・〇〇	九、二九五	七、三三〇
一〇	九	三三・二二	三〇・〇六	三・一六	一〇・七	二二・〇〇	二〇・〇〇	二・〇〇	九、二九五	七、三三〇
一二	二	九七・六五	九〇・〇七	七・五八	七・七	二二・〇〇	二〇・〇〇	二・〇〇	七、三三〇	九、四三〇
一六	二	二〇・三三	一九・〇六	一・二七	六・三	二二・〇〇	二〇・〇〇	二・〇〇	九、四三〇	九、四三〇

種別	製品名	調査工場数	平均一日一鍾當生産高				平均一日一人當生産高				回轉數
			實前	實後	差	百分率	實前	實後	差	百分率	
二〇		一四	五三・三	四〇・七	九・六	二七・八二	二二・六五	五・一七	二一・〇三	一〇、一九九	
二三		一	四〇・七六	三三・四三	七・三三	二五・三三	二二・八三	二・五〇	二五・三三	一一、四九	
三〇		六	三二・〇	二六・七五	五・二五	二二・八七	一九・七五	三・一二	二二・三二	九、四九	
三一		一	三三・〇	二六・九〇	六・一〇	二七・九				一〇、九三	
三二		五	元・七一	三三・九	四・八〇	一七・九五	七・八〇	一・一五	二二・七六	一〇、九三	
三五		一	三三・〇	二七・四	五・六	二二・七二	二〇・三六	二・三六	二二・七二	一〇、三〇	
三六		三	三三・三	三〇・九	一・七	七・八四	六・五七	一・二七	三・八八	八、五九	
三九		一	三三・三	一九・八	一三・五	一三・五八				九、二八	
四〇		一〇	三三・六	一八・九	一四・七	一五・〇八	六・八四	四・九	六・二七	一〇、九八	
四二		三	一九・四六	一七・四	二・〇六	二二・〇	五・七九	一・五	二二・三	一〇、七三	
四六		一	一八・八	一六・二〇	一・九八	一〇・八九	五・八八	一・〇〇	一七・三三	一〇、七三	
總平均		一	三三・八二	二七・三	五・二〇	八・九七	二〇・五九	九・五四	九・五四	八、八四	

備考

- 一、前後とあるは深夜業廢止前後を意味し、差實數とは前後の差の實數を示す
- 二、百分率とは差實數を深夜業廢止前の實數にて除したる百分率にして小數第三位は切捨たるものなり。
- 三、△印を附したるは深夜業廢止の方、廢止前より増加したるものを示し之なきは減少を示す。

### 第二章 絹絲紡績業

#### (一) 平均一日一鍾當生産高

總平均に於ては一六・三九%の減少にして、實働時間數の減少率の一五%よりも大である。而して番手別に見る時、最高減少率は七〇手の三九・七一%にして、六五手の二五%弱之に次ぎ、最低なるは佛一二〇手の二・五五%の減少にして、増加したる紡出番手は無い。而して二〇%以上の減少番手は、七〇、六五、一一〇、一二〇等にして一五%以上の減少は一七七及二三〇手である。

#### (二) 平均一日一人當生産高

總平均に於ては八・〇三%の減少にして、番手別にありては、一三五手の減少率二八・七七%にして一二〇手の一四・八八%、二三〇手の一〇・八五%の減少之に相亞ぎ、最低減少率は七一手の二・三一%である。

#### (三) スピンドルの回轉數

總平均に於ては五・五九%の増加を來して居る。各番手別は之を見るも一一〇手以外は何れも回轉數は増加して居る。最高増加は一八・〇二%の七一手にして、佛一二〇手の一三・四七%之に次ぐ、増加の最低なるは〇・〇六%の増加一一七手である。

此等三者の状況を詳細に表示すれば第十二表に示す通りである。

第十二表 絹絲紡績生産高

製 品 名	種 別	調査		平均一日一錠當生産高		回 轉 數		平均一日一人當生産高						
		工場數	實 數	前	後	前	後	前	後					
計		二四	一〇八・九	九〇・七	一七・七	一六・三	七、五八四	八、〇六六	四四四	五・五九	二・五〇九	二・三〇八	二〇	八・〇三
佛		二〇	二二・三	二二・八	〇・三	二・五	七、一〇	八、〇六九	九七	一・三	一・二八四	一・三四二	五七	四・四
二		三〇	六・六	五・六	一・三	二・五	八、五三	八、六三	四九	〇・五七	一・九五	一・七四二	二二	一〇・八五
一		三五	六・三	六・〇	〇・三	二・五	七、九七	八、六〇	六七	七・九	一・五五	一・二六	四九	二・七七
一		二〇	二・三	二・五	〇・二	二・五	七、三	七、四三	九	一・三	三・四〇	二・八四三	二〇	四・八
一		一七	二・一	二・二	〇・一	二・五	八、一七	八、一八〇	五	〇・六	四・三〇	四・一〇	二〇	四・八
一		一〇	一・六	二・〇	〇・四	二・五	六、四	六、〇五〇	三七	五・八	四・七〇	四・〇〇〇	四〇	八・五
七		一	一・一	一・〇	〇・一	二・五	六、七	七、五	一、三	一・八	二・六六	二・六四	六	二・三
七		〇	一九・九	二一・〇	〇・五	二・五	七、六	七、八	四〇	三・一				
六		五	三・三	二・七	〇・六	二・五	七、六	七、八	二四	三・一				

備考

- 一、前、後とあるは深夜業廢止前、後を意味し、差實數とは前後の差の實數を示す。
- 二、百分率とは差實數を深夜業廢止前の實數にて除したる百分率にして小數第三位は切捨たるものなり。
- 三、△印を附したるは深夜業廢止の方、廢止前より増加したるものを示し、之なきは減少を示す。

(四) 番手別スピンドル回轉數増減別工場數

已に述べたるが如く、調査工場數は僅かに二四工場にして内増加したるものは二〇工場にして九三・三三%に當り、減少したるもの四(六・六七%)である。増減をなさざりしもの一工場もなかつた。

第十三表 絹絲紡績製品別スピンドル回轉數増減別工場數調査

製 品 別	増 減 別	回 轉 數		増 減		計
		増	減	増	減	
佛		一	二	一	一	二
二		三	三	一	二	二
一		三	二	二	一	八
一		二	一	一	一	五
一		一	一	一	一	一
七		一	一	一	一	一
七		一	一	一	一	一
六		一	一	一	一	一
計		二〇	四	二	一	二四

(五) 工場別平均一日一錠當生産高比較

(一)に於て述べたるは同一の番手を紡出する工場の平均を示したるものにして、(五)に於ては番手別且

工場別に於て生産高の増減を最高、最低につきて調査したるものであるが、最高増加は一三五手の三〇・一六%にして、佛一二〇手一二・八〇%の増加之に次ぎ、減少率の最高は一三五手及一二〇手の四三・一六%にして、二三〇手(一六・六四%)は之に次いで居る。最低の減少は一三五手の〇・一七%である、其の詳細は第十四表に示す通りである。

第十四表 絹絲紡績工場別平均一日一鍾當最高最低増減率比較

製品別種別	増		減		平均
	最高	最低	最高	最低	
佛	一	二	一	一	一
二	三	三	二	一	二
三	三	三	三	三	三
四	三	三	三	三	三
五	三	三	三	三	三
六	三	三	三	三	三
七	三	三	三	三	三
八	三	三	三	三	三
九	三	三	三	三	三
十	三	三	三	三	三
十一	三	三	三	三	三
十二	三	三	三	三	三
十三	三	三	三	三	三
十四	三	三	三	三	三
十五	三	三	三	三	三
十六	三	三	三	三	三
十七	三	三	三	三	三
十八	三	三	三	三	三
十九	三	三	三	三	三
二十	三	三	三	三	三
二十一	三	三	三	三	三
二十二	三	三	三	三	三
二十三	三	三	三	三	三
二十四	三	三	三	三	三
二十五	三	三	三	三	三
二十六	三	三	三	三	三
二十七	三	三	三	三	三
二十八	三	三	三	三	三
二十九	三	三	三	三	三
三十	三	三	三	三	三
三十一	三	三	三	三	三
三十二	三	三	三	三	三
三十三	三	三	三	三	三
三十四	三	三	三	三	三
三十五	三	三	三	三	三
三十六	三	三	三	三	三
三十七	三	三	三	三	三
三十八	三	三	三	三	三
三十九	三	三	三	三	三
四十	三	三	三	三	三
四十一	三	三	三	三	三
四十二	三	三	三	三	三
四十三	三	三	三	三	三
四十四	三	三	三	三	三
四十五	三	三	三	三	三
四十六	三	三	三	三	三
四十七	三	三	三	三	三
四十八	三	三	三	三	三
四十九	三	三	三	三	三
五十	三	三	三	三	三
五十一	三	三	三	三	三
五十二	三	三	三	三	三
五十三	三	三	三	三	三
五十四	三	三	三	三	三
五十五	三	三	三	三	三
五十六	三	三	三	三	三
五十七	三	三	三	三	三
五十八	三	三	三	三	三
五十九	三	三	三	三	三
六十	三	三	三	三	三
六十一	三	三	三	三	三
六十二	三	三	三	三	三
六十三	三	三	三	三	三
六十四	三	三	三	三	三
六十五	三	三	三	三	三
六十六	三	三	三	三	三
六十七	三	三	三	三	三
六十八	三	三	三	三	三
六十九	三	三	三	三	三
七十	三	三	三	三	三
七十一	三	三	三	三	三
七十二	三	三	三	三	三
七十三	三	三	三	三	三
七十四	三	三	三	三	三
七十五	三	三	三	三	三
七十六	三	三	三	三	三
七十七	三	三	三	三	三
七十八	三	三	三	三	三
七十九	三	三	三	三	三
八十	三	三	三	三	三
八十一	三	三	三	三	三
八十二	三	三	三	三	三
八十三	三	三	三	三	三
八十四	三	三	三	三	三
八十五	三	三	三	三	三
八十六	三	三	三	三	三
八十七	三	三	三	三	三
八十八	三	三	三	三	三
八十九	三	三	三	三	三
九十	三	三	三	三	三
九十一	三	三	三	三	三
九十二	三	三	三	三	三
九十三	三	三	三	三	三
九十四	三	三	三	三	三
九十五	三	三	三	三	三
九十六	三	三	三	三	三
九十七	三	三	三	三	三
九十八	三	三	三	三	三
九十九	三	三	三	三	三
一百	三	三	三	三	三

### 第三章 梳毛紡績業

#### (一) 平均一日一鍾當生産高

總平均に於ては一二・五三%の減少にして、之を各番手別に平均を見る時は、増加したるもの無く、減少中の最高は一七手の三三・四三%にして、六八手(二〇・二五%)、五〇手(一八・八四%)等之に次ぎ、最低は三二手の四・九二%の減少である。

#### (二) 平均一日一人當生産高

總平均に於ては二・四九%の減少にして、番手別平均に於ては六・二六%の増加したるものもあるも、他は何れも減少を來した。最高減少率は二〇手の五〇・二八%にして、之に次ぐは一七手(四一・五四%)である。二〇%以上の減少を來したるは此の外には無く、一五%以上の減少は四八、五〇、五二及六四手である。最低減少率は一・七六%である。

#### (三) スピンドル回轉數

總平均は〇・四四%の減少なるも、増加したるものに六〇手の二・五三%があり、減少したるものに二〇手の一一・三六%がある。其の他の番手は回轉數を増減しなかつたものである。以上三者の状況を詳細に表示すれば第十五表の通りである。

第十五表 梳毛紡績平均一日一鍾及一人當生産高並回轉數調査

製 品 名 別	工 場 数	平均一日一鍾當生産高			百分率	回 轉 數			百分率	平均一日一人當生産高			百分率
		前	後	差		前	後	差		前	後	差	
一七	一	四・〇七	二八・六七	一四・四〇	三三・四三	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—	一一・三六	—	—	—	—
二〇	一	六・九七	六・三三	一三・六六	一七・二九	四、四〇〇	三、九〇〇	—	—	—	—	—	—
三二	一	三〇・〇〇	三九・〇〇	一・五〇	四・九三	五、二七〇	五、二七〇	—	—	—	—	—	—
三三	一	四・五七	三三・三三	七・三六	一七・四六	四、〇〇〇	四、〇〇〇	—	—	—	—	—	—
四八	一	二・三六	一七・三九	三・九三	一八・六六	四、四四二	四、四四二	—	—	—	—	—	—
五〇	三	二〇・九二	一六・九七	三・九四	一八・八四	五、八一	五、八一	—	—	—	—	—	—
五二	三	一七・二二	一五・七一	一・四〇	八・八	五、四三三	五、四三三	—	—	—	—	—	—
六〇	三	一四・八九	一三・五五	一・三三	八・九三	六、五八八	六、五八八	—	—	—	—	—	—
六二	一	一六・三三	一三・三三	三・〇〇	二・八〇	四、三〇九	四、三〇九	—	—	—	—	—	—
六四	三	二・八三	一〇・七六	二・〇四	一五・九二	五、〇八三	五、〇八三	—	—	—	—	—	—
六八	一	一四・六六	一一・六九	二・九七	二〇・二五	四、二五三	四、二五三	—	—	—	—	—	—
共 他	三	一六・〇〇	一五・七三	二・二七	六・七〇	六、六八三	六、六八三	—	—	—	—	—	—
計	三	三九・八八	三四・八八	五・〇〇	二二・五三	五、三五四	五、三三〇	二四	〇・四四	五・七五三	五・六〇八	一四	二・四九

備考  
 一、前後とあるは深夜業廢止前、後を意味し、差實數とは前後の差の實數を示す。  
 二、百分率とは差實數を深夜業廢止前の實數にて除したる百分率にして小数第三位は切捨たるものなり。  
 三、△印を附したるは深夜業廢止後の方、廢止前より増加したるものを示し、之なきは減少を示す。

(四) 番手別スピンドル回轉數増減別工場數

絹絲紡績業にありては回轉數の變更を來さざりしものは一工場もなかつたが、梳毛紡績業にありては之に反し、變更したるもの僅に二工場にして、其他の一九工場は何れも變更をしなかつたものである。

第十六表 梳毛紡績工場スピンドル回轉數増減別工場數調査

製 品 名 別	工 場 数	回 轉 數		増 減	計
		増	減		
一	一	—	—	—	—
二	一	—	—	—	—
三	一	—	—	—	—
四	一	—	—	—	—
五	一	—	—	—	—
六	一	—	—	—	—
七	一	—	—	—	—
八	一	—	—	—	—
九	一	—	—	—	—
計	七	—	—	—	—
共 他	八	—	—	—	—
計	一五	—	—	—	—